

● ホーム・デポ・センターの取り組み

団員 武田 浩一

調査研究テーマ「スポーツ振興」の担当として、私からは、「ホーム・デポ・センター」の取り組みについて報告する。

「ホーム・デポ・センター」は、カリフォルニア州立大学ドミンゲスヒルズ校キャンパス内にあり、サッカー、テニス、陸上競技場、ラクロス、バレーボ



(ホーム・デポ・センター)

ール、野球、ソフトボール、バスケットボール、室内競輪場等の施設がそろっているスポーツ合同施設であるとともに、メジャーリーグサッカーのロサンゼルス・ギャラクシー及びクラブ・デポルティボ・チーヴァス・USAが、ホームスタジアムとして使用している。

また、アメリカ合衆国サッカー連盟ナショナルチームのトレーニング本部、全米テニス協会の高機能ナショナルトレーニングセンターでもあり、全米で最も進んでいるスポーツ施設の一つである。

松山中央公園や愛媛県総合運動場とほぼ同じ大きさと聞いていたが、通路と設備が整っており、広く感じた。

時間の関係もあり、すべての施設を視察することはできなかったが、サッカースタジアム（27,000人収容）やテニスコート（8,000人収容）、そして、室内競技場（2,450人収容）等を視察し、担当のライザ・リーさんから説明を受けながら質問を行い、現状の確認を行った。

1点目に、集客活動について確認を行った。「ホーム・デポ・センター」では、親会社であるAEGグループで対応しており、高速道路沿いの看板等のPR活動を実施しているが、とにかくイベントが多く、建国記念日等では、戦闘機が

飛行したり、花火を打ち上げたりして多くの入場者が確保できているらしく、日本（松山市）では考えられないくらいの大がかりなイベントを実施していることがわかった。

2点目に、施設の運営管理に従事している人数について確認を行った。「ホーム・デポ・センター」では、7名の正規職員と200名のパート職員で運営管理を行っており、それとは別に各チームごとに500人程度の人数で対応しているとのことであり、同センター自体の職員数は、特別多いという感じではなかった。

3点目に、利用料金の運用について確認を行った。「ホーム・デポ・センター」では、早期予約、季節、低所得者等の特別な料金設定は実施していなかった。障害者についても、座席は設けているものの料金については、同額であった。ただし、カリフォルニアは、気候に恵まれ暖かく、利用者も多少の増減はあるものの、年間を通じて確保できているとのことであった。また、使用料金については、サッカースタジアムを1日借りた場合、50,000ドル（約400万円）とのことであった。

4点目に、収入増や経費削減への取り組みについて確認を行った。「ホーム・デポ・センター」では、収入増への取り組みとして、VIPルーム（テニスで1試合約25万円）の利用拡大や契約の長期化と保障、そして、アメリカらしいところで、オファー時に必ず先に相手方の価格を聞き、希望の値段に近づける努力をしており、駐車場代金についても、1台あたり15ドルから20ドル程度徴収しているとのことであった。また、経費削減については、保守に力を入れて取り組み支出を減らしていた。



（サッカースタジアム 人工芝に敷き替え中）

全体を通じて、大規模で利用料金も高いが、アメリカ人の気質と

してスポーツに対しての関心が高く、利用率が高い（お客が多い）感じを受けた。

特にサッカースタジアムは、天然芝の上に土を入れてオートバイのモトクロス大会を行い傷ついた芝を、今度は人工芝に敷き替え（敷替料 約125,000ドル（約1,000万円）、アメリカンフットボールの試合を行うなど、積極的に施設の活用を図っていたが、芝の敷き替えは利用者負担であり、逆に言えば、敷き替えをしても興業が成立し利益が得られることであり、日本（松山市）では、考えられないスポーツに対する関心の高さがうかがえた。

今回の視察で得た「ホーム・デポ・センター」の取り組みは、文化・気候等が違うこともあり、そのまま本市での取り組みに活用することはできないが、この視察経験を生かし、本市のスポーツ振興の一翼を担うとともに、ライザ・リーさんを初め関係者に感謝し、私の「スポーツ振興」視察報告とする。



ライザ・リーさん（右）と握手